

令和5年度 第1回宇都宮市地産地消推進会議 会議録	
日 時	令和5年4月20日(木) 午前10時～11時10分
場 所	宇都宮市役所14D会議室
出席者	<p>(委員) 10名</p> <p>阿 部 恒 久 (栃木県河内農業振興事務所)</p> <p>西 山 未 真 (宇都宮大学),</p> <p>寺 内 美栄子 (宇都宮市農村生活研究グループ協議会),</p> <p>手 塚 安 則 (宇都宮市園芸振興連絡協議会)</p> <p>田野邊 大 介 (東一宇都宮青果株式会社)</p> <p>渡 邊 崇 (栃木県飲食業生活衛生同業組合)</p> <p>佐 藤 要 (宇都宮市PTA連合会)</p> <p>松 本 謙 (株式会社ファーマーズ・フォレスト)</p> <p>伊 藤 元 士 (宇都宮青果商業協同組合)</p> <p>山 崎 裕 希 (株式会社オータニ)</p> <p>(事務局) 9名</p> <p>會澤次長, 枝課長, 小林課長補佐, 鈴木係長, 高橋総括, 河野主任, 金子主任主事, 塚越主事, 佐藤課長 (宇都宮農業協同組合)</p>
欠席者	<p>遠 藤 信 一 (宇都宮市議会議員)</p> <p>山 崎 昌 子 (宇都宮市議会議員)</p> <p>見 形 繁 (宇都宮農業協同組合)</p> <p>野 澤 克 子 (宇都宮市消費者友の会)</p> <p>佐 藤 弘 大 (公益社団法人 宇都宮青年会議所)</p> <p>増 淵 祥 子 (宇都宮市食生活改善推進員協議会)</p> <p>福 田 公 一 (株式会社東武宇都宮百貨店)</p>
公開・非公開の別	公 開
傍聴者	1人
内 容	
	<p>次第1 開会 午前10時(進行:鈴木係長)</p> <p>次第2 委員紹介</p> <p>次第3 暫定議長の選任について</p> <p>⇒ 暫定議長を西山委員とすることで決定</p> <p>次第4 議事</p> <p>(1) 議案第1号 役員の選定について</p> <p>⇒ 会長を西山委員, 副会長を見形委員, 監事を佐藤(弘大)委員, 佐藤(要)委員とすることで決定</p>

事務局（河野）	<p>(2) 議案第2号 令和4年度事業報告及び収支決算について</p> <p>【事務局説明】</p> <p>⇒ 異議がないことから、原案のとおり決定する。</p>
事務局（河野）	<p>(3) 議案第3号 令和5年度事業計画及び収支予算について</p> <p>【事務局説明】</p>
佐藤委員	<p>今年度の年間スケジュールにある5月からの給食とのマッチングと8月からのLRT開業等に伴うイベントの実施とは具体的にどのような取組を行っていくのか。</p>
事務局（河野）	<p>1点目の学校給食のマッチングについては、教育委員会においても学校給食における地場農産物の使用割合を増やしていく方針であり、具体的にトマトの活用の相談を受けている。教育委員会と連携してマッチング等を進める予定である。</p> <p>2点目のLRT開業等に伴うイベントの実施については、まだ具体的な企画までではないが、8月のLRT開業以降の注目される機会を捉えて地産地消のPRに向けたイベントを実施していきたいと考えている。</p>
西山会長	<p>現在市内学校で行っている「お弁当の日」において、学校の栄養士さんの指導を受けながら地場農産物を使ったお弁当を作ることで地産地消を知ってもらうなど、モノ消費だけではない生産者や関係者と連携した取組を進めてほしい。</p>
佐藤委員	<p>市内トマトの給食マッチングはすばらしい取組と感じる。農業に馴染みの少ない街中の学校でも、給食の地産地消を通じて農家とのつながりを持つことができるし、おいしいと言ってもらうことで、農家のモチベーションにもつながることから、給食の地産地消を今後も推進してほしい。</p>
西山会長	<p>モノの消費だけだとなかなかリアリティを感じることがなく、消費者の心に届かないと感じる。生産地や生産者につながることで初めて地産地消を意識できるのでそのような工夫を加えて取り組んでほしい。</p>
事務局（鈴木）	<p>令和4年度に田原小学校において、地元のイチゴ農家と交流・つながりを持つ取組を行ったところである。教育委員会においても、地産地消と食育には力を入れていくという話を聞いており、引き続き連携して取組を推進していく。</p>

西山会長	<p>補足となるが、「お弁当の日」についても、市内トマトを使うだけではなく、トマトを実際に収穫してそれを使うなどの体験型の取組もできると思うので、教育委員会とはよく連携をとって進めていってほしい</p> <p>「市民が支える仕組みづくり」とあるが、とてもよい考え方だと思う。今後は、「買う」だけでなく、実際に市民が収穫などに参加してみんなで農業を支えるための機会の提供も重要だと感じている。</p> <p>イベントにおいても、単にマルシェで購入機会を提供するだけではなく、市民がオープンファームなどで収穫体験し、収穫物をマルシェで実際に販売してもらうなど地産地消を直に感じて広げていくことも大切だと感じる。</p>
山崎委員	<p>価格だけで消費者が呼べる時代ではなくなってきたと感じる。生産者の顔が見えるような売り方をするなど工夫を行っているが、まだまだ伝わらない部分があるので、実際に土に触れ、収穫を体験することで、農業の大切さや地場農産物の良さを理解してもらえる機会を提供していくことが必要だと感じている。</p>
松本委員	<p>農業が単に食べものを作るだけのものではなく、地域の豊かな自然環境や景観を作る重要なものであることを理解してもらい、今後どのようにかかわっていくべきかを市民の皆さんに感じて、考えてもらう機会を提供することが大切ではないか。</p>
事務局（鈴木）	<p>現在、SNSなどで生産者や産地が消費者に見える情報発信に積極的に取り組んでいる。また、生産農家がマルシェに参加し直接消費者と接してもらう機会を作るなど、単にモノ消費だけで終わらないように心掛けているところである。コト消費の重要性は認識しており、いただいた意見を反映して今後の取組を進めていきたい。</p>
西山会長	<p>大学の授業の中で、欧州や東京の地産地消の先進事例を講義したところ、学生たちが積極的に議論している姿が印象に残っている。後々は、多くの市民が地産地消を身近に感じて、積極的に議論されるような環境になってくれることを願っている。</p>
手塚委員	<p>生産農家として、学校給食に生産した農産物を提供もしているが、やはり、子どもたちには、口にした野菜が、地元の誰がどのように汗を流して作っているのかを知ってほしいし、その理解促進や意識付けが地産地消や食育において一番大事なことではないかと感じている。</p> <p>⇒ 異議がないことから、原案のとおり決定する。</p>

<p>事務局（高橋）</p> <p>松本委員</p> <p>事務局（枝）</p> <p>西山会長</p>	<p>5 その他</p> <p>宇都宮市地産地消推進計画の策定について</p> <p>【事務局説明】</p> <p>現状、中・高齢者に支えられて市場は成立しているが、持続可能な宇都宮の農業を実現していくためには、次世代の意向をいかに掴んでいくかが重要だと感じている。現役世代への働きかけはもちろん必要だが、次世代への発信が少し弱いのではないか。</p> <p>次世代が地産地消に積極的に関わってもらえるように、その世代の意見を聞く仕組みも含め、取り組んでいかないといけないと感じている。せつかく地産地消推進計画の見直しの機会でもあり、次世代も意識して作業を進めてもらえると良い未来が開けると感じる。</p> <p>委員の御指摘のとおり、若者・次世代への情報発信が課題であると認識している。</p> <p>昨年度の事業でも、若い世代からの参加が少ないということで、キャンペーンの中にデジタルを取り入れて取り組んできたところであり、手探りではあるが若者にも参加しやすい取組を進めているところである。</p> <p>計画の策定に当たっては、いただいた意見を踏まえ、若い世代をはじめ広く御意見を聴取ながら作業を進めていく。</p> <p>ぜひ、若い世代がかかわれる機会を設けていただく等、工夫や配慮をお願いしたい。</p> <p>次第6 閉会 午前11時10分</p>
	<p>書記：事務局（農林生産流通課農産物マーケティンググループ 高橋）</p>